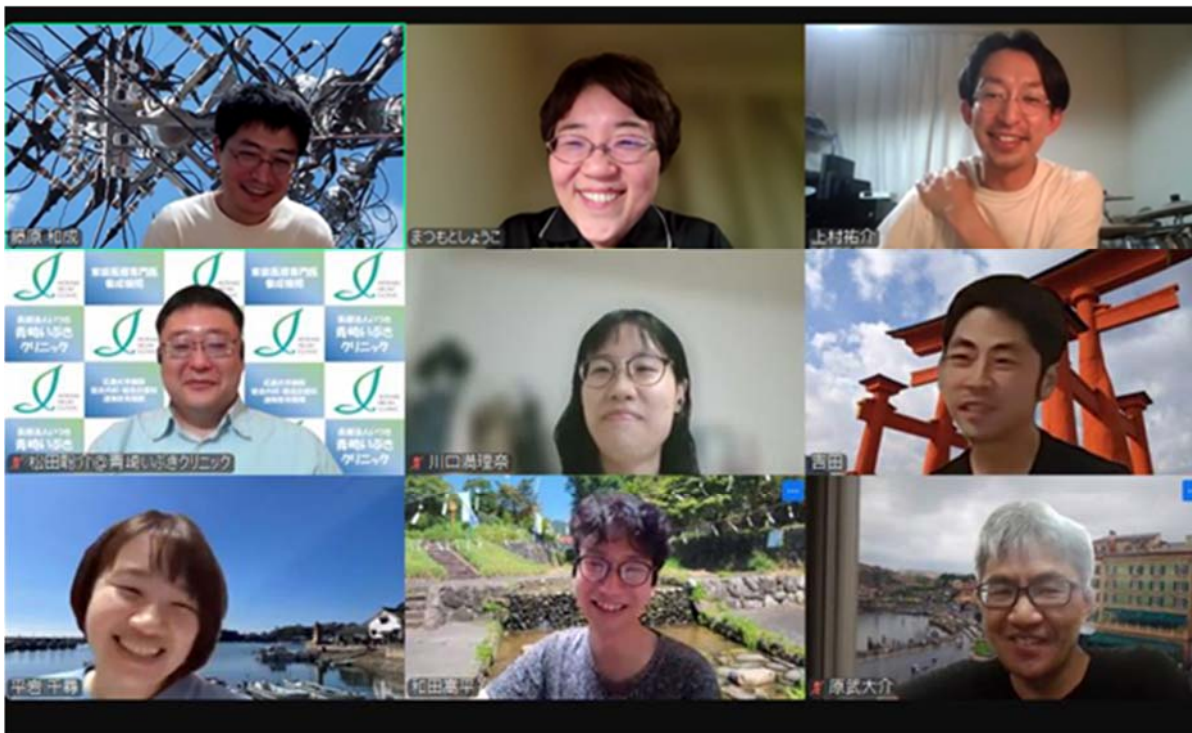




【指導医ごちゃまぜ相談会～おれの話聞いてくれ～ 開催報告】

主催:指導医ぴあさぽ同好会

9月14日月曜日 20時半～オンラインで指導医ごちゃまぜ相談会を開催しました。昨年度2回開催し、一部のみなさまに大変好評をいただいた企画です。今回は、総合診療の現場で指導医として働く医師 約10名が参加されました。学生から専攻医までの教育現場での課題がさまざまに出されました。学生教育では、発達特性への合理的配慮を求める学習者への対応での悩み、アンプロフェッショナルとどこで判断するか、といった話題がでました。専攻医教育においては、少数精鋭の指導医だからこその孤立(ワンオペ状態)が語られました。指導医同士が多忙のため、ちょっとした愚痴や雑談をする時間がないというのは、案外つらいものだ、というのが多くの参加者から共感されていました。ポートフォリオ作成支援の大変さ、専攻医と一緒に作っていくことにどんな価値を感じてもらうか、そのための指導方法はどうか、などがそれぞれ違うプログラムに所属する指導医の間で議論できたのはとても有意義でした。ポートフォリオ作成の過程で振り返りをするときの対話のコツとして、指導医が質問するときにあえて「少しずらす」ことで、視点が変わり内省が促されるというアプローチが紹介されました。中国ブロック支部の指導医のネットワークがこの企画を受けて少し強化されたのでは、と思います。次回は12月14日 20時半～開催予定です。



【m-HANDS 2026 第1回の報告】

中国ブロックでの指導医養成の報告

出雲家庭医療学センター大曲診療所 藤原和成

山口大学医学部附属病院 総合診療部 齊藤裕之

【m-HANDS-FDF】

(modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship)

2015 年より継続してきた中国ブロックの指導医養成コースです。12 年目となる今年度もオンラインとオンサイトを交えて開催します。8 月から 3 月まで、月に 1 回全 8 回のコースとして実施しています。

今年度も、JPCA-ML など募集して中国地方の指導医 3 名が参加中です。チームを作って様々な課題に取り組んでもらっています。

以下に参加してくれた指導医からの報告を掲載します。

2027 年度も引き続き開催を予定しています、ご興味のある方はぜひご連絡下さい。

〈目的〉

中国ブロックの指導医の養成とプログラム運営の質向上を通して、プライマリ・ケアの普及と発展をめざす

〈対象〉

- ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を修了した医師
- ・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

〈アウトカム〉

Core Competence : Adult Educator(成人学習支援者)

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる

教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる

学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる 参加者と講師による学習共同体の形成を勧め、ブロック内の指導医ネットワークを作る

机上のプログラム作成だけでなく、各現場での仕組みづくりや教育チーム形成ができる

総合診療の魅力やプログラムの魅力を効果的に伝えられる発信力や求心力を発揮できる

ツールの活用や工夫などで独創的で質の高い遠隔教育ができる

<第1回 出雲オンサイト開催 8月15日(土)16日(日)>

【フィードバック】

形成的評価と総括的評価の違いなどフィードバックに関する基礎知識を事前に学習し、当日はこれまで受けたフィードバックの中でも印象に残っているものについてそれぞれ提示しディスカッションを行った。

フィードバックの内容や伝え方だけでなく、それを行う指導者の立場や状況、学習者との関係性など様々な視点から事例について分析を行い、より効果的なフィードバックについて知識を深める事ができた。特に ER での研修医に対するフィードバックは自身もよく遭遇する状況であり、次回からの当直業務などで実践していきたいと感じた。(相原彩貴)

【青年の主張】

日々の業務で行っているプレゼンではあるがあらためて誰に何を伝えるかということに立ち返り、発表の仕方やプレゼン資料を作成するということを意識すると難しい内容であると感じました。また、最初にそれぞれのフェローの趣味な

どを垣間見ることができ、今後一緒に活動するなかでの人柄などがわかる良いきっかけとなったと思います。自分も鯖缶を買おうと思いました。(加藤篤之)

【ファシリテーション】

ファシリテーションのセッションでは、「病院の夏祭りで出店する屋台やサービスについて」をテーマに、4人でグループワーク形式の話し合いを行った。ファシリテーションの4つのステップと4つのスキルを意識しながら、参加者から意見を引き出し、議論を整理して合意形成につなげる過程を実践した。実際にファシリテーターを経験することで、単に会議を進行するだけでなく、参加者が発言しやすい場を作り、多様な意見を整理しながら議論を目的に沿って進めることの重要性を学んだ。今後の職場での会議や多職種での話し合いにも活かしていきたい。(岸本悠暉)

【チームビルディング】

タックマンモデルやレンシオーニの機能不全モデル、エドモンドソンのチーミングなど事前に学習し、当日は総合病院での仮想事例をもとにどのようにチームを再構築・再稼働させるかディスカッションを行った。

フェロー側では心理的安全性に注目し、専攻医や他職種に配慮するような内容が中心となったが、指導医チームでは問題となっている人物の背景・心理に着眼した全く別の介入プランが出て非常に参考になった。チームビルディングの難しさ、そして面白さを感じた。(相原彩貴)

【リーダーシップ】

自分がいままで専攻医として業務していくなかでは、チームの中で中心となる機会は少なかったように思っていました。しかしリーダーとリーダーシップは違うことをこのセッションでは理解することができました。それぞれの役割を活かして、リーダーシップを発揮すること。リーダーシップとマネジメントの違いを認識できたことは非常に自分のなかで学びとなりました。(加藤篤之)

【交渉術】

交渉術のセッションでは、前半に2人1組で、制限時間内に200円を等分以外の方法で分配する交渉を行った。交渉に対する基本姿勢やZOPA・Bottom line・BATNAなどの概念を学び、実践を通して理解を深めた。後半では、クリニックへの小児科診療導入をテーマに、総合診療科医・看護師長・事務長の3役で交渉を行い、私は医師役を担当した。交渉は難航したが、まず少人数から小児ワクチン接種を開始することで合意した。当初希望していた結果にこだわるのではなく、互いの立場や利害を踏まえ、実現可能な合意点を見出すことの重要性を学んだ。(岸本悠暉)

【青年の主張R】

「30秒で人を動かすプレゼンを行う」という自身にとって初めての挑戦であった。

当日はそれぞれ自由なテーマで発表を行い指導医からフィードバックをもらった。その中で、効果的なプレゼンには話し方・スライド作成などのテクニックに加え、より詳細な目標設定や相手について事前の情報収集を行う重要性など新しい気づきが得られた。時間がない中での重要なプレゼンは日常診療でもよく経験することであり、今後に生かしていきたいと感じた。(相原彩貴)



<第2回 宇部オンサイト開催 9月12日(土)13日(日)>

【効果的な学習とは】

自分が研修していた総合診療専攻プログラムや医学部の授業についても学習指導要領があったが、きっとこのような評価をもとに考えられているのだなと感じた。そもそも今回カリキュラムを考え、学習者から学習者を評価する側になった際、どんなことをもとに学んだことを評価するのか新鮮な視点で学ぶことができた。学ぶのは通過点に過ぎず、相手の行動を変容させることが目標となるという視点は今まで意識できていなかったのが今後は意識していきたい。(加藤篤之)

【ビデオレビュー】

ビデオレビューでは、加藤先生と私の後輩指導の場면을撮影した動画を視聴し、指導医・フェローで振り返りました。学習者の考えや背景をまず聞くこと、できている点を具体的に伝えること、課題を本人に考えてもらうことなど、フィードバックの工夫について多くの意見が出ました。また、表情や声のトーン、会話の間など、動画だからこそ気づける点もありました。私の動画では、緊張している学習者に対して、まず指導者側から話しやすい雰囲気をつくることの大切さを学びました。(岸本悠暉)

【カリキュラム開発】

Outcome Based Education という医学教育における基本の考え方に加え、Kemp model・Kern's 6 step approach などカリキュラム開発の一連の基礎知識を事前に学習した。当日は自身がこれまでに携わった教育活動を1例提示し、この基礎知識に基づいて事前評価・目標設定・方略など実際のカリキュラム開発を指導医と共に取り組み、最後に全員でプランの共有を行った。レベルを意識した目標設定、適切かつ実現可能な評価方法など自身の考えが及んでいない部分も多く改めて教育の難しさを実感すると共に、現在携わっている教育活動にもどんどん盛り込んでいきたい内容盛りだくさんのセッションだった。(相原彩貴)

【学習者評価】

そもそも評価とは何を決めるのか。何ができた、変わった、高かった、その基準一つ一つで大きく変わっていくのかを実感した。たかがチョコレート、されどチョコレート。一体自分は何を持って好きなチョコを決めていたのかまったく自分自身に自信が持てなくなってしまった。普段自分がいつの間にか評価していたものを言語化、定義化するのが難しいと思

った。また評価する人間が変わると評価が変わってしまうような基準を作ってはいけない、一般化できる基準を作り、説明することの難しさを実感することができた。(加藤篤之)

【シネメデュケーション】

シネメデュケーションでは、『Call the Midwife』を視聴し、登場人物や今後の展開について自由に意見を交わしました。治りにくい褥瘡を抱える老紳士について、疾患だけでなく SDH にも目を向ける必要性や、若い看護師との距離感、医療者が患者と私的に関わることの是非、望まない妊娠をした女性の今後など、さまざまな視点から議論が広がりました。映像作品は態度領域の学習に活用できる一方、内容によっては心理的負担となるため、つらい場合には退出してよいと事前に伝えるなど、参加者への配慮も重要だと学びました。(岸本悠暉)



第3回 オンライン開催 10月17日(土)の予定です